

## 特定非営利活動法人 夢ハウスけやきの家

障害者の自立と社会参加の推進を目的として、2006年に設立されたNPO法人夢ハウスけやきの家。設立当初は、養護学校卒業後に行き場のない子どもを出さないため開設された支援センター「夢ハウスけやきの家」の施設運営を主要事業の一つとしていましたが、社会環境の変化に伴い、求められる役割も変わりつつありました。時流の変化に呼応しながら法人のミッションを果たすため、いかに活動を継承してきたかをご紹介します。



理事：山岸豊後さん

### 課題 社会環境の変化

2006年に施行された障害者自立支援法を始め、法整備が進むとともに障害を持つ子どもの受け入れ施設が増え、夢ハウスけやきの家が開設された当初と比べると障害を持つ子どもの保護者の心配は解消されつつありました。社会の制度が整ってきたなかで、保護者にとって夢ハウスけやきの家の必要性は相対的に低くなり、支援や活動参加も次第に低下。将来も見据えながら、事業の存続に目を向けなければいけません。



▲自ら民家を改修して開設した初代「夢ハウスけやきの家」。

### アクション 事業をバトンタッチ!

学校卒業後に行き場のない子どもを出さないというそもそもの目的は、時代変化を経て社会の中で果たされたと判断。施設運営という手段が目的となつては健全ではないと、2011年により財政基盤の整っている社会福祉法人へ施設を譲渡しました。それ以降は次の役割として、障害者の自立と社会参加の推進に向けて社会的に必要性があり、かつ私たちが担える活動を継続しています。例えば、障害についての知識を広めるために障害に関係する映画の上映会を行ったり、総合支援学校後援会への寄付を行ったりしています。



▲映画上映会の様子。収益金は学校への寄付となります。

- ポイント①** 活動を長く継続していると、年々事業が固定化されがちですが、事ある毎に「何のために活動しているのか」と目的を顧みて客観的にすべきことを検討し、必要であれば他団体との連携、方向転換、あるいは活動のクロージングを考えることも必要です。
- ポイント②** NPO法人は非営利活動を行う民間組織として、社会課題に対し早くタイムリーに対応できる、活動の柔軟性が持ち味です。NPO法人、行政、企業がそれぞれの特性を活かしたり補い合いながらまちづくりを進めることが大切です。



Racotte  
vol.73

発行 ● ながおか市民協働センター



### インタビュー

interview

ふるさとの偉人に光を当てる  
地域伝承人

## 山本一成さん



ママたちの笑顔づくりに  
取り組むUターンママ

## ジョーンズ文穂さん



## 私たちは〇〇ができます!

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん! 困りごと、協力してほしいことはありませんか? 私たちが力になりますよ!

**団体①**

「長岡おやこ劇場」は、子ども向けイベント企画ができます!

私たちは親子での演劇体験を通して、子どもが表現する楽しみを感じたり自己肯定感を育むために活動しています。演劇のほか、英語、ダンス、アウトドア活動に関する子ども向けイベントの企画運営ができます。

詳細はこちら

**団体②**

「まちの駅 森の仲間『千の森』」は、イベントや寄りの場を提供できます!

私たちは越路地域で多世代の居場所、交流スペースとして「千の森」を運営しています。いつも音楽やダンス、書道、民謡など幅広い活動が行われています。イベントや練習会の場を提供できるほか、様々な特技を持つ「千の森」の利用者を紹介することもできます。

詳細はこちら

## センターからのお知らせ

### 【チラシ発送サービス】 あなたのチラシを1000ヶ所へ発送!

協働センターでは皆様の宣伝したいチラシを情報誌「らこらマ」と一緒に市内各地へ郵送することができます。ぜひご利用ください!



「らこらマ」発送作業の様子

- 【チラシ同封までの流れ】**
- ① 申込書を受け取る(窓口での手渡し、HPからのダウンロード)。
  - ② 締切日までに申込書を提出。
  - ③ 料金は無料ですが、発送日に同封作業のお手伝いをお願いしています。(AM10:00~12:00)
- ※発送するチラシは各自で用意し、発送当日にご持参ください。  
※締切日、発送日は月によって異なるのでお問い合わせください。  
※同封可能なチラシは、公益性があり非営利の活動に限ります。

- チラシ持込で他にもこんな方法で告知サポート!**
- 協働センターにポスター掲示&チラシの設置
  - 協働センターのホームページ、SNSで情報拡散
  - メールマガジンで情報発信(月2回配信)
  - 各種メディアへ情報提供(新聞社やテレビ局等)

コライト、見ないと!

コライト  検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこらマのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らこらマ 2019.1.1 (vol.73) FREE 【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F  
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

毎週月曜日17時頃から放送中!

つながるラジオ

FMながおか 80.7MHz

ながおかの市民活動紹介番組 | 放送時間 10分程度 第5月曜日を除く

- 活動PickUp!
  - ・吉水歴史伝承会
  - ・椿の森倶楽部
  - ・ラ☆ルミネ
  - ・株式会社 阿部製作所
- 市民活動・虎の巻
  - ・時流に乗った活動継承のススメ 『特定非営利活動法人 夢ハウスけやきの家』
- 私たちは〇〇ができます!
  - ・長岡おやこ劇場
  - ・まちの駅 森の仲間『千の森』



山本一成さん (71歳 / 元仏師) ふる里伝え隊

未来につなげるふるさとの価値  
歴史は“今”つくるもの

中之島地域の偉人ゆかりの品を収集し、次世代に伝えようと活動する「ふる里伝え隊」。この会の代表を務める山本一成さんは、33歳の時に、生業としてきた農家から得意な絵を仕事にしようと仏師に転身。そして60歳を迎えたのを機に、仕事を長男に任せ、地域活動に取り組みはじめました。「中之島で暮らし続け、仕事でも地域に支えられてやって来ました。それで、60歳になったら地域に恩返ししたいと思っていました」。そんな気持ちに加え、合併で長岡市となったことで中之島地域の歴史が埋もれ、特性が薄れていくことへの危機感から山本さんがまず所属したのは中之島郷土史研究会。この会で仲間との出会いや、日本史の表舞台には出てこなくとも地域に尽くした偉人たちの存在に触れました。

そんな中で、明治29年の横田切れの大水害で苦難に喘ぐ住民を救おうと、大河津分水の建設に尽力した高橋竹之介の遺族から、遺品をまわし

しに役立てたいと相談を受けました。「骨董品として値は付かなくとも、地域の歴史を知る上では展示する価値のある貴重な品々だと思っています」。そんな思いから、山本さんは遺品を引き取り地域内の集まりの場である公会堂2階に「高橋竹之介展示館」を設置。みんなから見てもらえる機会を設けました。この取り組みを通して、「地域の歴史と密接に結びついた遺品の数々は、未来につながるふるさとの宝物だということ」を実感しました。

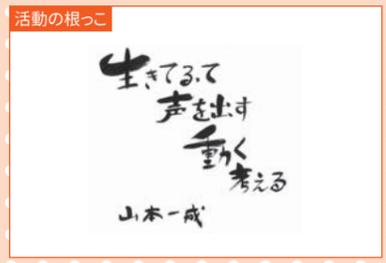
平成23年にふる里伝え隊を立ち上げてからは、講演会や展示会、DVD制作などを精力的に行い、子どもから大人まで多くの人に郷土史に触れてもらえるよう取り組んでいます。「自分たちに一番身近な地域の偉人を掘り起こし伝えていくことで、子どもたちに自分の未来への可能性を感じてほしいです」。偉人を通してふるさとの歴史に光を当てる山本さん。これからも地域への誇りを育んでいきます。



●上:2017年10月には「アオーレに中之島の風が吹く」と題した中之島地域の偉人17人を紹介する展示を開催。地域内外から2週間で800名近くの来場がありました。●左下:最近山本さんが熱心に取り組んでいるのは、石の凹凸を活かして動物を描く「石アート」。70歳を迎えたこれからは、絵画技術を活かした表現活動にも力を入れていきたいそう。●右下:「地域づくりはまず家庭から」という気持ちで中之島の景色や文化をお孫さんに伝えていきます。

profile

- 1947年 中之島地域の農家に生まれる。
- 1980年 33歳で仏師に転向。仏壇屋から時絵の仕事を受け、スタートを切る。
- 2007年 60歳を迎え、長男に仕事を任せ地域活動に取り組み始める。
- 2011年 ふる里伝え隊発足。地元の偉人ゆかりの品を収集し、講演会や展示会を開催している。
- 2017年 絵を描く特技を活かし、石に着色し動物を描き始める。周囲の人とも楽しみたいとサークル化を目指して準備中。



あやほ ジョーンズ文穂さん (44歳 / 団体職員) &mamaつなぎ、しろまる食堂、ハンドメイド・てしごとteam tsu\*zuku

アメリカと長岡で感じた子育てギャップ  
様々な角度からお母さんたちの笑顔をつくる活動を

四郎丸地区で子ども食堂を運営する他、ママたちを手助けできる環境づくりに多数関わるジョーンズ文穂さん。活動を始めたきっかけは、8年間アメリカでの子育てを経験し、長岡に戻って感じた子育てのギャップでした。「日本で驚いたのが、子どもが風邪をひくと、お母さんたちが『風邪をひかせちゃって』と自分を責めるように言うこと。アメリカはいい意味で暮らしも子育ても大雑把でしたが、日本では責任を感じやすい状況のように思いました」。

平成28年、長岡市「子ども子育て会議」の公募委員に応募したのも、ママを取り巻く環境を変える手助けができないかと思ったから。任期終了後も公募委員メンバーで「&mamaつなぎ」を立ち上げ。ママと市議や教員などをつなぐ「〇〇&ママ」イベントを開き、多様な意見交換の場と子育ての理解を広げています。

また、アメリカで通っていた「キルトカフェ」の影響から手芸が得意なジョーンズさん。ママ友と一緒に長岡をもっとハンドメイドで盛り上げたいと「ハンドメイド・てしごとteam tsu\*zuku」をつくり、それぞれの得意を活かせる場も作っています。

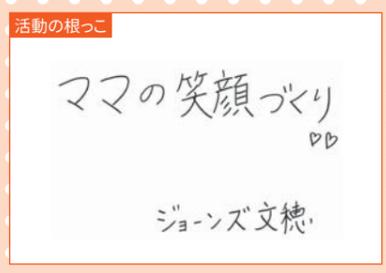
最近では多世代交流と孤食の減少を目指し、子ども食堂「しろまる食堂」を開始。実施してみてわかったこともありました。「お母さんが料理を休める日になったり、小学生が友達と外食できる機会になったり、想像以上に参加者の利用目的は色々あり、気軽に集まってご飯を食べられる場所の需要を強く感じました」。終始謙虚で自分がやりたいことをしてきたけれど振り返るジョーンズさんですが、ママの笑顔を増やすためにしてきたことが波及していくのではないかと感じました。



●上:初回のしろまる食堂で話すジョーンズさん。「多世代が交流しあって地域力ある四郎丸地区を次世代につないでいけたらいいなと思っています」。●左下:ハンドメイド・てしごとteam tsu\*zukuのメンバー。チーム名「tsu\*zuku」は、長岡弁のつづく＝届くから由来し、新たな出逢いに「続く」ことを願って付けました。●右下:&mamaで月に1回開いているおしゃべり会。毎回テーマを変えてママ同士が繋がれる場を作っています。

profile

- 1974年 長岡市に生まれる。
- 1999年 大学卒業後スペインへ渡り夫と出会う。
- 2000年 結婚、出産を機に地元長岡へ戻り、2年後家族でアメリカに移住。地域の人とお茶を飲みながら手仕事をする「キルトカフェ」が好きでよく通う。
- 2010年 帰国。アメリカと日本の子育てにギャップを感じる。
- 2016年 長岡市「子ども子育て会議」の公募委員に就任。これをきっかけに立ち上がった「&mamaつなぎ」に加入。



活動PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

吉水歴史伝承会

伝統がつなく地域内交流



栃尾地域にある吉水集落では、戦前から3m40cmある大しめ縄を集落内にある神社に納めてきました。これまでは町内会で行っていましたが、現在は平成25年に発足した「吉水歴史伝承会」を中心に、子育て世代からなる育成会や青年会など、集落の若手や子どもたちも参加。田植えや稲刈りをしてわらをとったり、しめ縄づくりを行っています。伝統継承に加えて、多世代が楽しく集う交流の機会です。

椿の森倶楽部

SL、ピザ窯、田んぼ…「楽しい」が詰まった地域の寄り合い場

平成28年に団体設立して以来、和島の地域づくり活動をしてきました。ミニSLの走行会や製作をする「SL塾」、手作りピザ窯でピザを焼いたりコーヒーを提供する「石窯&本格コーヒー塾」、和島にも所縁のある良寛を学ぶ「良寛塾」、畑仕事やお米作りを手掛ける「自然塾」の4つの“塾”を軸に地域内外、老若男女が交流できる場づくりをしています。「自ら楽しむ」気持ちを motto にこれからも活動していきます。



ラ☆ルミネ

光のような音楽を届ける



“美しい曲を美しいままに”声の魅力を追及しながら、素敵なハーモニーを奏でる女声アンサンブルの団体です。平成26年に東日本大震災の復興を応援するために生まれた『花は咲く』の楽譜に出会い、「素敵な曲を理想的に奏でられるメンバーと歌いたい」とコーラス好きが集まったことがきっかけとなりました。現在は音楽イベントへの参加や慰問活動などを行い、日本の叙情的な季節の唱歌や世界の名曲など持ち歌も増えています。

株式会社 阿部製作所

地域に何が出来るかを「しなやかに」考える会社

昭和42年創業の金属加工、レーザー加工などを専門とする会社。時代のニーズを捉え、社会福祉法人とともに部品の組み立てや梱包作業をする福祉作業所を敷地内に開設しています。また、「地元と板の小中学生がもの作りに興味を持つきっかけになれば」と職場見学を受入。さらには、社員がチームを組み「与板スポーツ公園」周辺の除草、清掃を定期的に行うなど、地域に貢献しています。今後は、ベトナム工場でも福祉活動を始動させたいと考えています。



みんなの声 / 投稿 随時募集中  
「これも協働!」暮らしの中で感じた人とのつながり

投稿者 流れ星さん  
お母さん世代って子育てにかなり大変ですね。なので年に1回くらい、私が近所のお子さんたちを預かってお母さん同士で旅行に行ったり夫婦水入らずでお食事に行ったりしてもらっています。お子さんたちが5、6人集まると、修学旅行のようにみんなでご飯を作ったり気が向いたらディナー大会を開いて楽しくやっています。「帰りたいな〜!」とくずる子もいるくらい(笑)。報酬は旅行のお土産です。

投稿者 みかんだるさん  
最近、習字を習い始めたところ、近所のおばあちゃんから年賀状の宛名書きを頼まれました。お駄賃はおばあちゃんとお茶のみとちょっとしたお小遣い。数年前にご主人を亡くされたおばあちゃんですが、今もなお、ご主人のご友人に年賀状を出すそうです。私もちゃんと出さないとダメーと思いました。

投稿方法  
投稿フォームを使う  
協働センター窓口で投稿する  
QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。  
協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

